



谷岡靖則 退任記念展

うしなわれしもの・とき、そして

Loss and Inevitable Renewal

2025.11.2 SUN - 11.16 SUN

東京藝術大学 大学美術館 陳列館

開館時間 | 10:00-17:00 (最終入場16:30)

休館日 | 11月10日(月)

観覧料 | 無料

主催 | 東京藝術大学美術学部

お問い合わせ | 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

ホームページ | <https://museum.geidai.ac.jp/>

展覧会概要

本展は、東京藝術大学美術学部工芸科鑄金で教鞭を執ってきた谷岡靖則の退任記念展です。

谷岡靖則は、鑄金を新しい視点で捉え、型に流し込むことでうまれる現象を再考し表現としています。工芸が常に向き合う素材の中で、鑄金として自然が持つ揺るぎない力をも感じながら、作品を制作する過程でうまれる偶然性と現実の自然界で起こり得る偶然性を重ね合わせてできる象が作品の核となっています。そこに在るミニマムな世界観をご高覧頂ければ幸いです。



鑄金技法概説

東京藝術大学鑄金研究室では、紀元前からある古来の鑄金伝統技法から現代の鑄造技法まで幅広く研究して、学生による現代感覚ある制作に応用しています。鑄金とは、粘土などで自由に造形したものから鑄型をとり、そこに溶解した金属を流すことで出来る造形法を云います。その造形法は世界各国独自の方法で現在も行われており、工芸をはじめ彫刻・デザイン・ジュエリーなどに活用されています。現在の鑄金研究室では、日本の伝統技法である真土による鑄造法や生型法、それと西洋で主に使われていた石膏鑄型による鑄造法を研究し、学生と共に制作をしています。また東京藝術大学取手校地共通工房金工鑄造室では世界各国何処でも使われているセラミックシェル鑄型による鑄造法を研究しています。

日本の伝統技法である真土による鑄造法の真土とは、耐火度のある砂に収縮の少ない粘土を混ぜて一度素焼きしたものを云います。その真土の塊を粉碎し、細かい砂にして再度埴汁という粘土の汁で固めて型を造っていきます。その真土による鑄造法には蠟型鑄造法・込型鑄造法・惣型鑄造法など幅広くあります。

今回紹介する技法は、イタリアで発明された鑄造技法のひとつ、石膏と耐火砂による鑄造法です。





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



1, 2, 3
ワックス原型

4, 5, 6
湯道付け

7, 8
鋳型

9
溶解

10, 11, 12
鋳込み

13, 14
鋳ばらし



谷岡 靖則

Yasunori Tanioka

略 歴

- 1958 年 北海道生まれ
- 1984 年 東京藝術大学美術学部 工芸科鑄金専攻卒業
- 1986 年 東京藝術大学大学院美術研究科 修士課程工芸鑄金専攻修了
- 1998 年 渡米（NEW YORK）
- 1991 年 東京藝術大学 美術学部 非常勤講師（～2001 年）
- 2002 年 文化庁在外派遣研修員 フランス・ボルドー（～2003 年）
- 2017 年 東京藝術大学 美術学部 准教授
- 2022 年 東京藝術大学 美術学部 教授

【グループ展】

- 2024 年 天空の芸術祭 2024 座標を探る / 東御市
- 2024 年 いもののかたち 2024 / 川口市立アートギャラリー・アトリア
- 2023 年 国際交流作品展〈2023 International Exchange Exhibition〉 / 大邱大学造形芸術大学美術館
- 2023 年 漸 -Zen- TOKYO GEIDAI JAPAN ART WEEK / THE BLUE GALLERY NEW YORK
- 2023 年 FIDEM XXXVII ART MEDAL EXHIBITION / Biblioteca Nazionale Florence
- 2023 年 天空の芸術祭 2023 まちにうつしみー場所と交差する身体 / 東御市
- 2023 年 Draw your emotion to the next new scene in Shintomi / Galerie SOL
- 2022 年 THE BRICKS NYC HOLIDAY ART SHOW / THE BLUE GALLERY NEW YORK
- 2021 年 中国国際現代金属芸術展 / 上海 世界手芸産業博覧園 E 館
- 2021 年 立体 2021 展 / Galerie SOL
- 2021 年 GALLERY shop SUPREME / SOL musette
- 2020 年 立体 2020 / Galerie SOL
- 2019 年 国際交流展 Beauty of Mekong – Art Exhibition and Painting Competition / ヤンゴン国立博物館多目的ホール
- 2019 年 立体 2019 / Galerie SOL
- 2019 年 鑄金の幻想 / 東京藝術大学大学美術館 陳列館
- 2019 年 音でつくる 音をつくる かたちをつくる / 藝大アートプラザ
- 2018 年 茶境 2018 / 東京藝術大学大学美術館 陳列館
- 2018 年 Life is ART - ライフ イズ アート 展 / 東御市 梅野記念絵画館
- 2018 年 いもののかたち ' 18 / 駐日韓国大使館 韓国文化院 ギャラリー MI
- 2018 年 国際交流作品展〈2018 International Exchange Exhibition〉 / 大邱大学造形芸術大学美術館
- 2017 年 工芸 4 人展 / 平成記念美術館ギャラリー
- 2017 年 茶境 2017 / 中国西安
- 2017 年 東京藝術大学 130 周年記念展 / 日本橋三越（～2018 年）
- 2016 年 M SCULPTURE 2016 / Galerie SOL
- 2016 年 茶境 2016 / 中国深圳
- 2014 年 COLLECTION 2014 / Galerie SOL
- 2002 年 作家紹介展 / Atelier Isidore KRAPO Bordeaux / France
- 2000 年 Tokyo Tatami Space Exhibition / 折元立身邸
- 2000 年 TRACE 展〈III〉 / Galerie SOL
- 1999 年 TEN / 藍画廊
- 1999 年 アーティストと観覧者がつくる美術 / 新冠町内各所（2000 年）
- 1997 年 地の力 ' 97 / 東京藝術大学芸術資料館取手館・取手市民会館地下駐車場
- 1996 年 日本の鑄金「いもののかたち」展 ' 96 / 麻布美術工芸館
- 1996 年 北海道・今日の美術 語る身体・10 人のアプローチ / 北海道立近代美術館 他（2017 年）
- 1995 年 地の力 / 東京藝術大学芸術資料館取手館
- 1994 年 KARADA が ART になるとき「物質になった器官と身体」 / 板橋区立美術館
- 1994 年 日本の鑄金「いもののかたち」展 / 麻布美術工芸館 / 高岡大和
- 1993 年 プロメテウスの坩堝 / 横浜ガレリアベリニの丘ギャラリー

【個展】

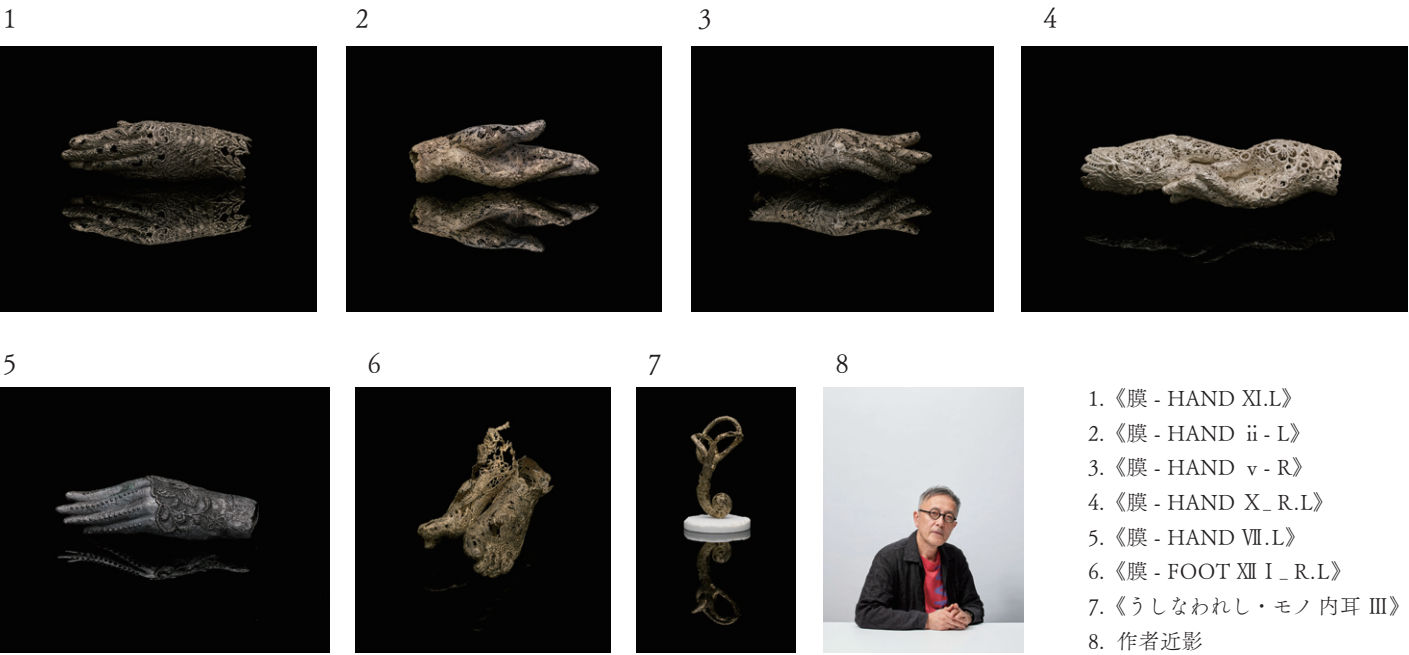
- 2024 年 Galerie SOL
- 2023 年 Galerie SOL
- 2022 年 Galerie SOL
- 2020 年 Galerie SOL
- 2019 年 Galerie SOL
- 2017 年 Galerie SOL
- 2003 年 Atelier Isidore KRAPO Bordeaux / France
- 2002 年 the Gallery SAATCHI & SAATCHI
- 2001 年 the Gallery SAATCHI & SAATCHI
- 2000 年 Galerie SOL
- 1998 年 Galerie SOL
- 1997 年 静内町コミュニティセンター
- 1996 年 藍画廊
- 1996 年 アートサロン II
- 1995 年 藍画廊
- 1994 年 藍画廊
- 1990 年 コバヤシ画廊

【主なモニュメント】

- 1989 年 カエル（新ひだか町コミュニティセンター / 北海道）
- 1991 年 馬方勝つつあん（東大和市奈良橋市民センター / 東京都）
- 2015 年 記憶から胚胎する連鎖（新ひだか町図書館・博物館 / 北海道）

【他に主な執筆・研究として】

2005年10月21日版 公明新聞文化面に「イサム・ノグチ展（東京都現代美術館）」展評をペンネーム綾水 寧紀で執筆し、2002～2003 年には平成 14 年度文化庁在外派遣研修員として『環境と芸術』シュボール／シュルファス以降のフランス現代美術を研究して報告書を執筆、2011～2013 年には『伊勢神宮御神宝銅鏡制作』（故・前東京藝術大学教授橋本明夫：制作）を研究・制作協力をして報告書をまとめる。



申請フォーム

ご希望の画像番号と必要事項をご記入の上、下記宛先までお送りください。（メール・FAX・ご郵送にて受付）

ご希望の画像			
貴社名			
ご担当者氏名			
ご住所	〒		
TEL			
E-mail			
掲載媒体名			
メディア形態			
発行・放送予定日	年	月	日
お申し込み日	年	月	日
連絡欄			

画像使用に関してのご注意

- ・画像は本展広報目的のご使用のみ、ご使用後の破棄をお願いいたします。
 - ・展覧会名、会期、会場名、クレジット等を明確にご掲載ください。
 - ・作品画像は画像加工せずご使用ください。文字載せも不可です。
 - ・画像にはキャプションをご明記ください。
- ・掲載前に校正を担当者までお送りください。
 - ・掲載後は掲載誌（紙）であれば1部を郵送、Web媒体であれば公開後URLを担当者までお送りください。
 - ・その他展覧会に関してのお問い合わせは下記窓口までお願いいたします。